

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
3	川崎市立田島支援学校	稲葉武

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちが伝わり、分かり合える経験を通して、自分を大切基本的な生活習慣、基礎的な知識・技能を身につけ、自立して生きる力を育てる。 ・基本的な生活習慣、基礎的な知識・技能を身につけ、自立して生きる力を育てる。 ・人やもの、自然や社会とのかかわりを通して、共に生きる力を育てる。 ・自ら考え決定する経験を通して、豊かに生きる力を育てる。 ・自らのからだと感じる心を大切に、健やかに生きる力を育てる。 	<p>(基本理念)豊かな関わり合いを通して育ち合う学校 (教育課程編成)児童生徒の教育的ニーズに応える学校 (研究研修)学び続ける教職員集団の集う学校 (防犯・防災対策)児童生徒が、安心して通学できる学校 (連携)保護者、職員、地域をはじめとする関係機関等と相互信頼と協働する学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍により内容を変更していた教育活動の点検・見直し。教育課程の整理。 ②学部長、主任の授業公開、授業研究の充実。 ③学習段階表を有効に活用した小学部から高等部までの一貫した学習指導。 ④保護者、地域への積極的な情報配信。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教育理念の推進	<ul style="list-style-type: none"> ①年度当初に教育理念・学校経営案について、全職員に説明。 ②保護者への発信。 	<p>【実現状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教職員に向けて教育理念、教育目標、教育の方向性についての具体的な説明を月1回の職員会議にて繰り返し配信し、理解を深めた。 ②学校ホームページをリニューアルし、各課程学年の様子や、学校の取り組みを保護者へ発信を開始した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学部間のつながりや系統的な学習についてのまだまだ充実しているとは、言えない。 ③感染状況が緩和されたが、地域との交流の機会を作ることが、まだ難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①研究等を通して、授業改善の視点である「どのように学ぶか、何を身に付けたか」に焦点を当て、その過程において教育理念の相互補生の考えが生かされているかや教育目標(目指す子ども像)の視点が生かされているかを各教科ごとのチームに分かれ確認する。 ②社会に開かれた教育課程の実現のために、保護者、地域へ本校の教育理念や教育活動について、感染状況を鑑みながら発信する機会を検討する。
2 授業研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①学部長、教務主任、学年主任による授業実践 ②月例協議会 	<p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①今年度は学年主任が、T1、T2合わせて週8時間程度の授業に入り、T2としての動き方、T1としての授業実践、授業の組み立て方や教材などの授業実践を間近に見せることで、教員の授業力向上を図った。部長、教務主任は週4時間T2として授業に入り、授業全体を年間を通して底上げできるように努めた。 ②月に一度、計6回の月例協議会を実施し、コースごとにわかれてそれぞれの授業をビデオ撮りをし、グループごとに授業の振り返りを行いながら、協議会を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①授業内容、発問の仕方など少しずつではあるが、教員が取り込もうとする意識は見られるようになったが、一緒に組む教員が限られており、定着には至らなかった。②1時間という限られた時間だったため深まるまでには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①来年度も総括教諭や学年主任の授業実践に取り組み、授業の組み方、学習内容、教材等についても学べる時間を継続し、教員の授業力向上につなげていきたい。 ②来年度も今年度の研究テーマを引き継ぎ、教員の自立への理解、授業実践へつなげていく。
3 教育課程編成	<ul style="list-style-type: none"> ①学習段階表の活用 	<p>【実現状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①昨年に引き続き、学習段階表を活用しながら指導案の作成を行い、周知をした。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各授業への効果的な活用方法がまだ十分とはいえないため、検討を継続していく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科の学習指導案に学習段階表組み込み、授業に生かされるような授業作りができるように、授業検証を継続する。

4	<p>保護者、地域への積極的な情報発信</p>	<p>①学年通信の定期的な発行 ②ホームページでの紹介</p>	<p>【実施状況】 ①各学年、各課程ともに、定期的に学年だよりを発行し、学校での様子をお知らせしたり、ご家庭にご協力していただきたいことをお伝えしながら、情報共有に努めた。 ②行事等の生徒の様子を、ホームページに載せ、情報発信に努めた。</p> <p>【課題】①本校には外国籍の保護者の方が多く、配布物には全てルビをふって配布したが、理解することがなかなか難しいことが多く、学校の様子についてご家庭に伝わりにくいことがあった。 ②行事が終わる度に、生徒の写真(ホームページ許諾の了解を取れた生徒のみ)を掲載したが、学校だより等で、地域に発信するまでには至らなかった。</p>	<p>①学年主任、管理職が確認しながら、学年だよりに掲載する内容を精選し、保護者への周知を図る。 ②ホームページを整理し、多くの方が閲覧することの意識を持って、多くの情報発信をする。</p>
---	-------------------------	-------------------------------------	---	---

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>学校教育推進会議では、生徒会活動の取り組みや高等部の課題や取り組みについて説明した。有識者、地域の関係機関の皆様からは多くの貴重な意見や助言を頂き、今年度の教育活動や職員研修等の取り組みについて高い評価を頂けた。生徒会役員の発表や文化祭の演技発表が大変立派だったこと、各学年主任が課題を明確にとらえ、課題解決に向けて学年一丸となり取り組んでいること、授業力向上のため、毎月の職員会議にて総括教諭が順番に5分間、授業力向上について話す機会を設けたことなどについてお褒めの言葉を頂いた。</p> <p>学校教育推進会議は年に2回、計4時間という限られた時間ではあるが、地域と外部機関や有識者の方々と学校とのつながり、結びつきをより強く実感でき、来年度の学校経営につながる助言を得た。</p>	<p>感染状況が緩やかになりコロナ禍での授業から、教職員の協力、保護者の理解に支えられて再度、教育活動の見直しや教育内容を整理しながら、学校運営を行ってきた。来年度はより学習指導要領の視点をもちながら、授業改善を図り、小学部、中学部、高等部のつながりや連続性、系統性を確認し、教育活動、学習内容を整えていきたい。</p> <p>学習段階表を有効に使いながら、授業を展開できるようにさらなる工夫を行う。</p> <p>組織として、報告・相談などが迅速に対応できるようになり、保護者や関係機関とも早い段階でつながることができ、生徒支援に大きな力となってきた。これからも学校運営を進める上で組織力を高められるように、職員との関係も大切にしながら学校運営を行う。</p> <p>若い教員の割合が大変多いため、総括教諭等にも日々教員を育てる意識を持たせていく。また、開かれた学校作りのために保護者や地域社会に積極的に情報発信を行う。</p>